



# ●わが社のCSR活動



## NDKグループのCSR活動

日本電通株式会社



### 1. はじめに

私たち日本電通株式会社（以下NDK）グループは『情報通信技術と企業家精神で人々が安心して生活のできる環境づくりに貢献する』という経営理念に基づき、事業に取り組んでいます。私たちが日常的に携わっている仕事そのものが、直接的・間接的にCSRへつながっていることを認識し、自らの業務を通じて「社会的」「経済的」「人間的」価値を創造することで企業としての社会的責任を果たすよう努めています（図1）。

現在、情報通信分野においては、ネットワークシステムの高速化大容量化が急速に進み、クラウド、ビッグデータ、IoT、AI（人工知能）、ロボティクス等の技術の進展により新しいビジネス活用が拡大していますが、こうした変化は、これからも加速していくものと考えています。

当社は、こうした情報通信技術を安心・安全・便利にご利用いただくよう取り組むことで、社会の持続的発展に貢献してまいりたいと考えています。以下にNDKグループが一体となったCSRの取組みについて紹介します。

### 2. CSR活動の推進

#### (1) CSRの位置づけと経営理念

私たちは、経営理念に基づき『挑戦・創造・協調』を行動指針として企業倫理に従って日常業務を遂行していますが、さらに、法的・社会的環境の変化がリスクを顕在化させている現状において法令を正しく理解し遵守することが、消費者、取引先、株主、地域住民、監督官庁などと良好な関係を維持していくうえで重要と考えています。日本電通株式会社とすべてのグループ会社は、コンプライアンス（法令遵守）の実践を、

経営の最重要課題の1つとして位置付け、コンプライアンスの徹底により、当社の経営基盤をなすことを強く認識し、社会的責任を果たしていきます（図2）。具体的な活動内容は3章にて紹介します。

#### (2) コーポレートガバナンス

当社は、持続的な成長と企業価値の最大化を図るために、コーポレートガバナンスの強化が重要であると認識し、社内情報システムの活用によりタイムリーな情報提供に注力するとともに、経営の透明性と健全性の確保、迅速な意思決定と事業遂行の実現に努めています（図3）。当社は、平成28年6月から、取締役会の監督機能の強化によるコーポレートガバナンスの一層の充実を目的として監査等委員会設置会社に移行しました。

#### (3) コンプライアンス

当社では、コンプライアンス（法令等遵守）を経営の最重要課題と位

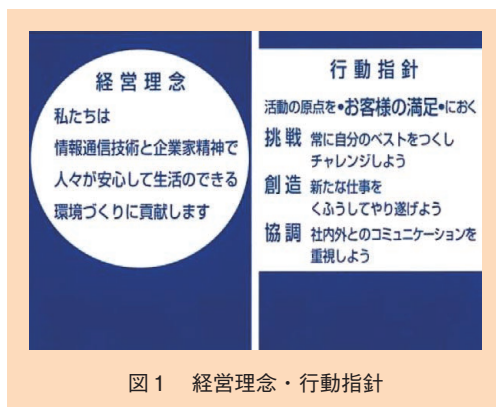


図1 経営理念・行動指針

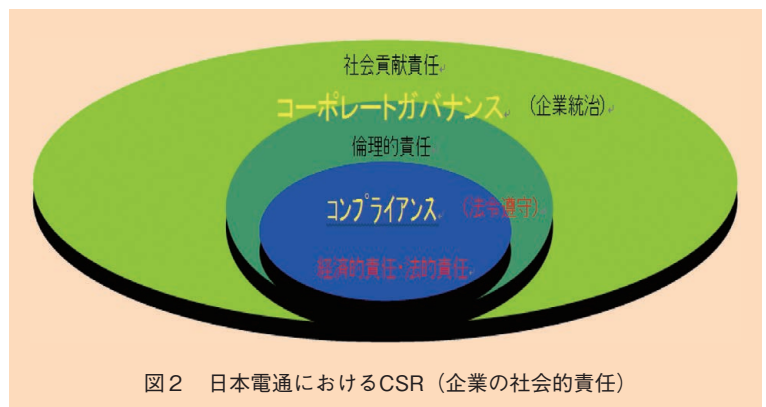


図2 日本電通におけるCSR（企業の社会的責任）

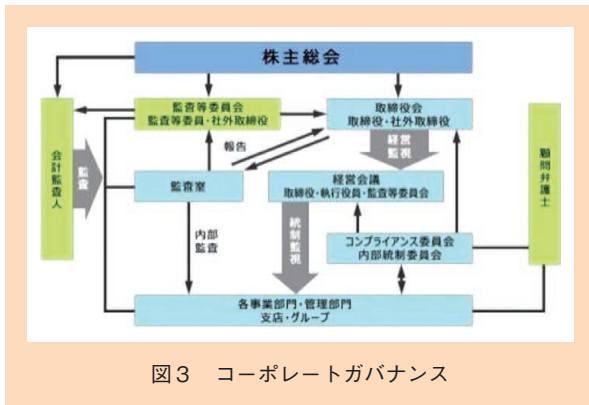


図3 コーポレートガバナンス

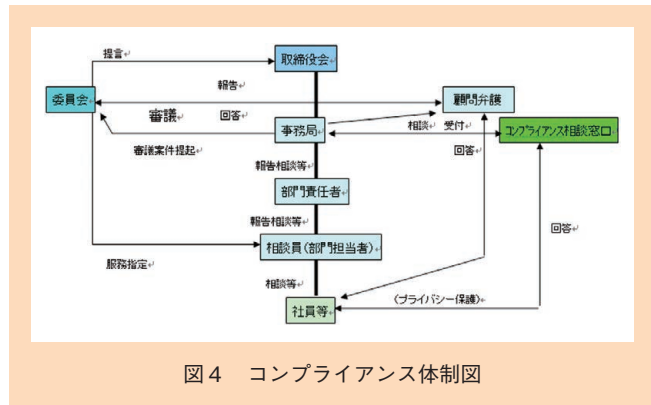


図4 コンプライアンス体制図

置付け、2004年10月にコンプライアンス委員会を設置し、コンプライアンスマニュアルを制定しました。またコンプライアンス研修を実施し、グループ全体での推進を図っています。さらに、内部通報制度として社内イントラネット上に情報BOX、社外には顧問弁護士の相談窓口を設置しています。

そして、コンプライアンスの実践・強化のための重要な事項を審議するため、代表取締役社長が任命した者で構成された『コンプライアンス委員会』を設置するとともに、外部の法律専門家による相談窓口を設

置することにより、コンプライアンスの実効性の確保を図っています。また、各事業部門・支社・支店には、当該部門のコンプライアンス責任者として『コンプライアンス・オフィサー』を任命し、遵守状況の報告と関係者への指導を行っています(図4)。

(4) 内部統制システム

当社は、子会社を含む企業集団全体が、経営理念に基づき、法令および定款に適合し、かつ適正に業務を遂行するために、内部統制システムを構築・運用し、継続的に改善・向上に努めています。当社では、重要

なリスクとなりうる事項について、その取扱等に関する管理規定と管理体制を定め、リスク事象発生の予防に努めるとともに、発生した事象は迅速に所管部門に報告され、適切な対応を決定し指示できるマネジメント体制を整備しています。

(5) マネジメントシステム

当社は、お客様からも社会からも信頼される企業を目指して、業務の標準化や継続的な改善を図るため、品質・労働安全衛生・環境・情報の各マネジメントシステムの認証取得をしています(図5)。

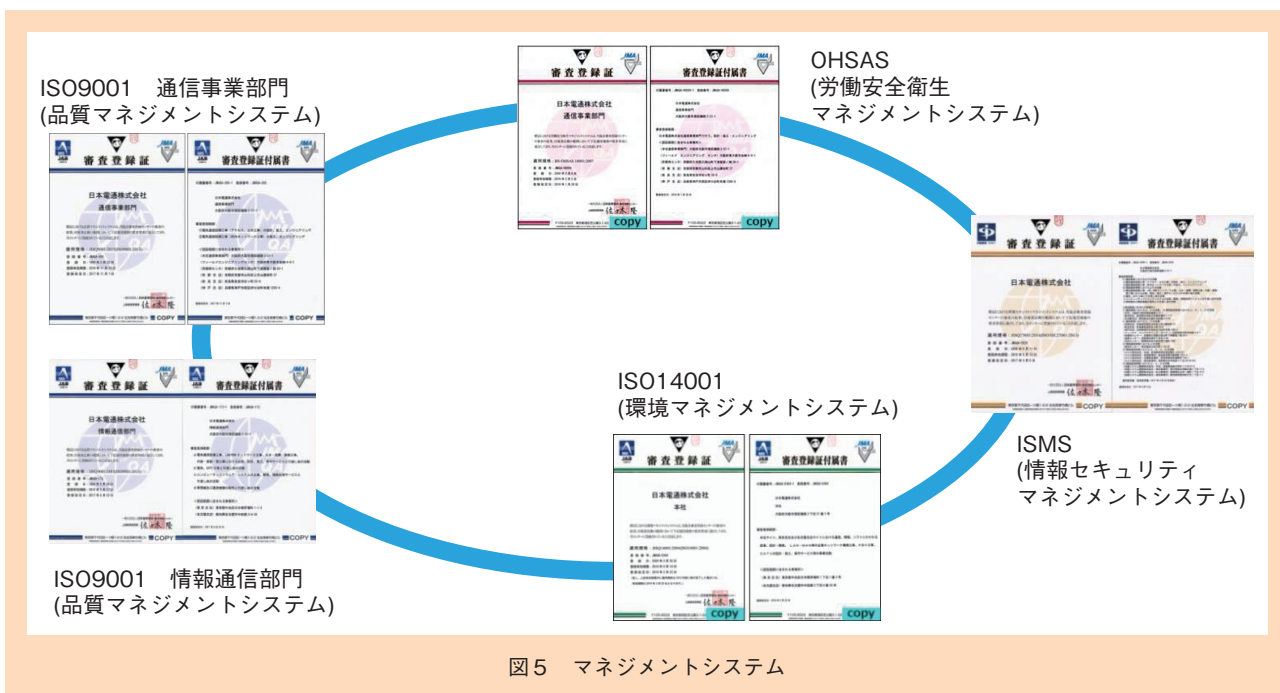


図5 マネジメントシステム

### 3. わが社のCSR活動

#### (1) 新たな取組み

##### I 創業70周年を記念し関西のメディアアートを支援

当社は1947年に大阪市阿倍野区で創業し2017年に70周年を迎えました。それを記念して、この度アーツサポート関西（公益財団法人 関西・大阪21世紀協会内）への寄付を通じて関西のメディアアートを支援していくことになりました（写真1）。当社は、今日の社会を支える情報通信インフラストラクチャーの構築・整備や、情報通信テクノロジー（ICT）におけるさまざまなソリューション開発・運用および情報処理サービスなどを提供しており、この度、同社と深くかかわる情報通信技術をクリエイティブな視点でとらえアートの表現として発信する、いわゆるメディアアートの可能性の拡大や新たな展開の促進を目指します。



写真1 「日本電通メディアアート支援寄金」記者発表の様子



写真2 講演会模様



写真2 講演会模様



写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

写真2 講演会模様

インターネットやスマートフォンが私たちの日常の暮らしを大きく変革したように、新たな価値や視点の創出を支援することで、関西の伝統文化を未来に向けて力強くつないでいくことになると考えています。

##### II バリアバリューについて

障害（バリア）を取り除く「バリアフリー」ではなく、障害（バリア）を価値に変える「バリアバリュー」という思考法について、株式会社ミライロ 代表取締役社長 垣内俊哉様をお招きしご講演いただきました（写真2）。垣内様は日本ユニバーサルマナー協会代表理事でもあり、ご講演を通じて高齢者や身体にハンディキャップのある人たちだけではなく、文化や言語、国籍、年齢、性別の差異、障害や能力にかかわらず、多様な方々を思い遣り、適切な理解のもと行動することが大切であると伝えていきます。今後、当社では多様な方々のサポート方法やコミュニケーションの習得を目的に

ユニバーサルマナー検定の取得に取り組んでまいります。

#### (2) 地域社会への貢献

##### I 劇団「態変／イメージ」への活動支援

劇団「態変／イメージ」とは、1983年に大阪を拠点に主宰者の金満里さんにより創設され、身体に何らかのハンディキャップを持つ人たちが自らを役者として演じ、芸術として舞台上で表現する劇団として34年間活動を続けていられています（写真3）。企業メセナ活動の一環として、当初は資生堂様、大阪ガス様や大阪コミュニティ財団様などとともに支援をはじめ、当社はこの劇団「態変／イメージ」の活動支援を今も、継続して行っています。

##### II 東大阪市施工拠点の「バリアフリー」化

2005年に大阪府東大阪市に施工拠点を開設しました（写真4）。事務所棟は段差をなくして「バリアフリー」化を取り入れました。また、ハンディキャップを持つ人たちが、トイレやエレベータを利用する際に



写真3 「態変／イメージ」



写真4 NDKフィールド・エンジニアリング・センター（東大阪市）

自動的に照明がつくことや出入りしやすいスロープを設置するなど、みんなが共に業務に従事できる建物としています。

### Ⅲ 子ども110番の取組み

当社および協力会社の営業車や工事車両等に「子ども110番」のステッカーを貼付して 営業活動等の中で地域を巡回しながら子どもたちを見守ることで子ども達に安心感を与えるとともに、交通事故・犯罪被害から子どもたちを守る活動を強化して、子どもたちが安心して暮らせる地域社会を目指しています(写真5)。

### Ⅳ 献血活動への協力

社会貢献の一環として、1997年11月より献血協力を開始し、現在まで41回の献血活動を行ってまいりました(写真6)。長期間にわたる実績は高い評価を受け、日本赤十字社大阪支部様から献血運動推進による感謝状をいただきました。より多くの社員に献血に関心を持っても

らうこと、また命の尊さを感じてもらうためにも、今後も献血活動を充実したものにしていきます。

### Ⅴ 大阪市港区「自衛消防技術競技会」への参加

港自衛消防協議会主催による「自衛消防技術競技会」が開催され、当社を含む企業等が多数参加しました(写真7)。事業所内で火災が発生したという想定に基づき、消火設備を迅速・的確に活用して模擬消火活動(放水を標的に当てる)を行う競技大会が開催されました。各出場チームとも「自分たちの職場は自分たちで守る」という原則のもと真摯に取り組む習熟された技術や所要時間等を競い合いました。

### Ⅵ 交通安全講習会の開催

毎年、所轄警察署の交通警察官を招聘し、改正された道路交通法令や最近の交通事故の発生状況等の説明を受け、発生実態に応じた具体的な防止対策などについて講義を受け、各種交通事故防止と交通法令の遵守

に努めています(写真8)。

### Ⅶ 高野山の道普請活動

和歌山県の「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録されている高野山の道普請(みちぶしん)をCSRの取組みとして行っています(写真9)。道普請とは公共の社会基盤である道路を修繕・維持することで、この取組みは2013年より毎年実施しています。現地では1t以上の修繕用の土を土嚢袋に入れて運び、傷んだ町石道の整備を行います。世界遺産を大切に保全し次代に引き継いでいくために今後も保全活動に参加してまいります。

### (3) 労働安全衛生について

当社では、「第三者の安全」「設備の安全」「作業員自身の安全」「個人情報等に対する安全」を基本とし、積極的に無災害に向けた安全および、災害予防の対策を取り入れて事業活動を推進しています。

### Ⅰ 安全総決起大会の開催

毎年6月、NDKグループおよび



写真5 「子ども110番」ステッカー

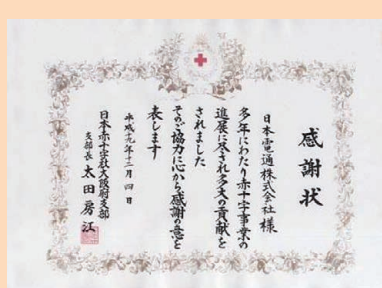


写真6 仕事の合間の献血活動



写真8 本社での交通安全講習会



写真7 自衛消防技術競技会



協力会社が一堂に会し、安全意識の高揚と無事故無災害を達成することを目的に、安全総決起大会を開催しています（写真10）。大会には外部から講師をお招きし、安全講話をお願いし、協力会社を含めたNDKグループ総体で安全の相互研鑽を行っています。

## II 安全パトロールの実施

施工現場の安全パトロールを行い、作業の安全と工事品質の確認作業を実施しています（写真11）。安全専任者によるパトロールは、対話型を軸として現場の作業者と対話を通じて安全について考えるひと時を持つとともに常に安全に作業ができるよう、その一助となれることを配慮して実施しています。

## III 「安全の日」と「ゼロ災の日」の設定

当社では、毎月10日を「安全の日」に、毎月21日を「ゼロ災の日」として定め、全社員が決められたリボンを着用し、安全意識の高揚を図っています（写真12）。また各現場では「安全の日」には器具・工具の一斉点検を実施し、点検をした証跡に月次シールを貼付して確認を行っています。加えて「安全の日」「ゼロ災の日」では本社や各事務所センター周辺で清掃活動が続けています（写真13）。

また、弊社ネットワーク部門は昨年9月14日で無事故10年に到達し、本年8月27日で無事故4000日達成に向け切磋琢磨しあっています。



写真9 道普請（高野山）



写真10 安全総決起大会

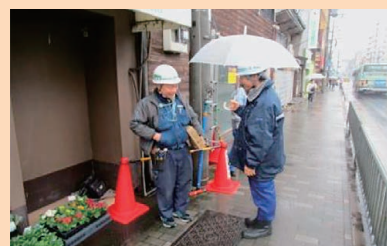


写真11 安全パトロール



写真12 安全リボン



写真13 安全の日の一斉清掃

## 4. おわりに

当社は1947年の創業以来、今年で71周年を迎えます。これからも情報通信会社として、安心で安全なサービスを提供し続けることで地域住民に愛され、お客様のよきパートナーであり続けたいと考えています。今後も成長する情報通信市場に

適応し、NDKグループの総合力を活かして市場開拓にも取り組んでまいります。

紹介した取組みはわずかですが、当社にふさわしいCSRの取組みを積み重ねて展開することで社会の持続的発展に向けて貢献していきたいと考えています。